

地球の木

♥地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- ありがとうそしてこれからも……1
- 私の初めての海外体験……2
- 15年続けてきて良かった……2
- 温かな村人との交流……3
- 「援助」から「連帯」へ……3
- 静かな戦争……4
- フィリピン・ネグロス調査報告……4
- 新生ネパールに若者と女性の力を！……5
- 15周年イベント……6
- にぎわう鶴見国際交流まつり……7
- ヨッコのグローバルアイ……7
- 活動日誌……7
- INFORMATION……8



15周年実行委員会委員長 武安ますみ

ありがとう！ そしてこれからも…

モニターを企画して

地球の木設立15周年を迎えるにあたり、会員の方々への感謝の気持ちを込めて、支援地スタディツアーや現地調査にモニターとして参加していただくことを企画しました。これは感謝の気持ちと同時に、地球の木がこの15年間に行なってきた支援というものが、どんなものなのかを肌で感じることができる絶好の機会だと考えたからです。

地球の木の支援は、その地域の人々の生活や自立を支えるための地道な支援で、「学校や病院を建てる」とか、自然災害の被災地への医療品や食糧の緊急支援などと違って見えにくいかもしれませんが、また、他のNGOを通しての間接的支援であるため、現地で見えてきたことを伝える時、どうしても伝わり方が弱くなってしまいます。ですから、今回のようにいろいろな人が支援地を直に見てくることが、何よりも効果があるのです。そして、新鮮な視点で感じたことを意見として出してもらうことが、地球の木のこれからにとって貴重な糧となるのです。今回ラオスとフィリピンへ行ったモニターの方々の帰国後の話の中では、現地を見、人々と触れ合うことで、自分の納めてきた会費が使われていることを実感できたということもおっしゃっています。このことは私たち理事にとっても、支援の内容をより理解する人が増えた喜びと、今まで行なってきたことへの自信になります。



「あなたにとって幸せとは？」海外編抜粋

地球の木の支援先フィリピン・ネパール・ラオスでききました。

★フィリピン★

- ビセンテさん(男性) ビノフハンの農家
学校に通うための自転車やおやつのお金を、親として野菜を売ったお金で子どもに渡してやれること。
- マリアフェさん(女性) サンフリアンの農家
夫と一緒に野菜を作るようになってから関係が対等になったこと。夫が私の話を興味を持って聞いてくれるようになったわ。

★ネパール★

- アスタ・ラマさん(男性) マンガルタール村の学校の先生
いろいろな人に会うこと。日本からこうしてはるばる訪ねてきてくれること。

- ラクシュミ・ラマ・フヤルさん(36歳・女性) 現地パートナー、カマルさんの奥さん
自分の家族が幸せなら私も幸せです。ものごとを前向きにとらえれば、私たちはいつでも幸せでいられます。

★ラオス★

- パッシーさん(60歳・女性) ラオ村のお産婆さん
子どもが生まれる瞬間に立ち会い、無事に生まれたとき。孫と一緒にいるとき。
- シーワイさん(44歳・男性) ガーヤンカム村の村長さん
「健康」、「ご飯をしっかり食べること」この二つがあれば他の活動ができます。

私たちの進む道

15周年という節目にあたり、今までを振り返り、これからを考える機会として、モニター企画のほか、アンケートや記念イベント(2月3日に開催)を行ってきました。これらを進めているうちに、地球の木の課題も見えてきました。減少傾向にある会員数(2006:12月現在1,012名)、会員の高齢化をどうしていくか。もっと地球の木のやっていることをわかり易くPRし、誰でも活動に参加できる工夫をしていくことが求められていると思います。また、「あなたにとって幸せとは何？」というアンケートを国内と支援地の人々に行いましたが、決して「金持ちになりたい」とかではなく、みんな自分の家族の健康や日々の生活でできることが、ほんとうの豊かさにつながるのだと改めて感じました。日本でも格差が広がる中、地球の木が掲げている「地球上のすべての人とともに生きたい」ということばの意味をかみしめながら、これからも地道に活動していきたいと思っています。

*1 記念イベント：イベントの様子については6ページをご参照ください。

*2 「あなたにとって幸せとは？」アンケート：記念イベント会場に展示しました。今後発行予定の記念誌にも掲載の予定です。

ラオス・スタディツアー モニター報告

(2006年11月15日～21日)



右が筆者



15年続けてきて良かった!

小林喜美子 (会員歴15年・なんぷ)

私の初めての海外体験

未吉 悦子 (会員歴13年・西湘)

今回皆様の中からモニターとして機会を戴き、三つの村を訪問しました。最初の村では、それぞれの自己紹介の後、村人たちが「毎日お米が食べられる事が一番の願いで、その他は家族と自然の中で、元気に働き、村人と交わる今の生活が幸せだ」と話してくれました。

次の村では、村長さんの家に泊めていただき、村の方と夕食をご馳走になりました。朝早く子ども達も手伝って、洗濯場でもあるメコン河から汲んできた水を使い調理します。モチ米のご飯、河から捕った貝や小魚、森で得た木ノ実、香味野菜等々、どれもおいしくいただきました。残りの野菜クズは、鶏、アヒル、犬が清掃係。稲の茎は、田起しの水牛が。全て自給自足で無駄なく循環させています。夕食後、旅の安全を願って村の方一人ずつ綿の実で紡いだ糸を私たちの手首に結んで下さいました。

次の日、村人、地元のボランティア、JVCの方々協力して作った果樹園、菜園、お米畑、米銀行を見学し、農業研修の代表者一名を選ぶ集集に同席しました。どれも長い道のりを経て、ここまで来た事を思うと頭が下がります。

セメント工場が出来た村も訪ねました。土地を手放して移り住んだ人、工場で働く人、今まで通りの生活が続ける家。変化は、共同体として支え合う力と人間関係の絆を弱めている様に感じました。空気も汚れ、健康が心配です。森を村の所有にする大切さを知らされました。

こうして書いてみると、村の方々がお隣りに居るようです。子どもたちの笑顔と、メコン河で観た星々がいつまでも輝き続きます様に、JVC、ボランティアの方、農業研修に来られている方々、どうぞお身体を大切に下さって下さい。お世話になりました皆様、楽しい旅をありがとうございました。



辛みそ、もち米ご飯など村のごく普通の食卓 (タニシの煮付け、野菜)



中央が筆者

ラオスは私にとって「いつか行ってみたい国」でした。なぜかという、私の周りの滞在経験者、皆が皆「良い国だよ」と言っていたからです。何がそれほど人を魅了するのか知りたいと思っていたので、今回参加する機会を得ることが出来て嬉しかったです。

特にJVCのスタッフに連れて行ってもらった支援先の村での二日間は想像以上の体験でした。村人との交流、元気に走る子どもたち、満天の星空、蚊帳を張った布団の中で感じた時の流れ、朝もやの風景は忘れられません。事前学習でラオスの現状や抱える問題を知りました。そして実際に行ってみて、村やラオス社会を取り巻く状況の変化を肌で感じました。

訪れた村は、今はゆったりと時が流れ、テレビのない部屋で家族全員が食卓を囲む、ゴミひとつ落ちていない桃源郷のような所ですが、いつの日か情報と開発の波が来るのかと思うと複雑な心境です。

人々のやさしい笑顔、豊かな自然は日本から来た私にはとても貴重で、無くして欲しくないものです。自給自足の生活が今よりも安定した豊かなものとなり、せめて世の中の流れに流されるのではなく、自分たちで選択して行って欲しいと願わずにはいられません。

村人たちの話を聞いて本当に必要とする支援を行おうとするJVCの真摯な活動の一端を見ることが出来、頼もしいスタッフに会えたのも嬉しい体験でした。適切なガイドをして下さった、会報にも投稿している新井さんは想像どおりの知的で落ち着いたチャーム的な女性でした。

私もラオスが大好きになって帰ってきました。15年前「月500円の家計支出だったら続けられそう」と気軽に入った「地球の木」ですが、続けてきて良かったと強く感じます。今まで会報の封を開け読んでいただけですが実は世界の人たちと繋がっていたんですね。「離れた地に住む人」が、会ってきた今『身近な人たち』になりました。素敵な体験をありがとうございました。

温かな 村人との交流でした

今回は村での民泊が叶ってゆっくり村の生活を見ることができ、村人たちに温かく受け入れてもらった。持参した日本や家族の写真を見せたり、子どもたちと折紙を折ったり、おいかっこをして遊んだりと親しく交流した。別の村では、「何人孫や子どもがいる」とか、「幸せって?」など聞いているうちに、そこは女同士通じ合うものがあり、女性の一日の仕事や糸つむぎの体験へと盛り上がっていった。

末吉さんは「きつとラオスには自分と似たような顔の人がいるだろう。そんな人と友だちになってみたい」というのが応募動機のひとつだった。隣に座った保健婦のケオカーさんと偶然同年だったこともあって、すっかり意気投合し、手をとって村を案内してもらっていた。小林さんは「殆どのお母さんが子どもを何人か亡くしている」という現実を聞いて、村でのくらしの厳しさや母親たちの強さを感じたと言う。

村を去る時には「元気でね」「又会いにくるからね」と、なんだか親戚と別れるような気持ちになったのだった。

(ラオスチーム 中野真理子)

フィリピン・ネグロス現地調査モニター報告

(2006年12月12日～17日)

「援助」から「連帯」へ……

参加型農村開発と外部者の関わりを考える

斎藤 聖 (会員歴6年・なんぷ)

私が「マジカルバナナ」と出会ったのは2001年。勤務校の平楽中学校ではそれ以来「マジカルバナナ」を使ったワークショップを毎年おこなってきました。今年成人式を迎えた学年から中学1年生まで、1,000人を超える生徒たちと数十人の教職員がこのワークを経験した計算になります。身近なバナナを通じて「学び合い、共に豊かに暮らせる世界を目指す」。このワークを生んだ、ネグロスの「バナナ村」を自分の目でみることに、これが今回のモニターに応募した動機の一つでした。しかし準備不足から、モニターとして何を見てくるのかということは、「行って見て考える」ことになってしまいました。

ネグロスでは、「レッツ・ゴー!ファミリープロジェクト」として、現地のカウンターパート「PAP21」が自立農業の支援をしている家族を訪ねました。そこでわれわれが見ることができたのは、元サトウキビ労働者であった彼らが、野菜を中心とした多様な作物を家族規模で栽培し、販売ルートを作り、自立した農民として自信を持って暮らしている姿でした。特に、農民自身による組織「ア



前列右が筆者

ノファ」が設立されたということもあり、これからは当事者主体の参加型開発が中心となっていくことは間違いなく、それに対する外部者の関わり方が問われる段階と見受けられました。

20年前にバランゴンバナナの民衆交易を最初に始めたユボ村では、まさにネグロス支援の歴史を見るようでした。一度、病害で全滅したバナナもこの10年で次第に回復し、生産者組合も軌道に乗っているようで、自信に満ちた彼らの表情と、バランゴンバナナが実際に生っている姿を見ることができ、当初の目的を達することができました。また、5年にわたる土地闘争を経て、犠牲者まで出して農地を勝ち取ってきたエスペランサ農場は、個人耕作地のほかに組合のデモファームを試みるなど、向上心と連帯意識も強く、社会運動に対する国際的な支援が実を結んだものと実感できました。

最終日は、PAP21の10周年記念式典と、昨年急逝したベン神父を偲ぶ会に参加しました。ベン神父は土地闘争の時代から、文字通り人々の支えでありつづけた人で、参加者には彼の遺志を受け継ごうとする決意がにじみ出ていました。また、日本人参加者全員で「ふるさと」を合唱し、ちょっぴり交流できたかなと感じたひとときでした。

ネグロスは日本の開発援助・国際協力のあらゆる形態を体現しています。「参加型開発の先には『援助』はない、あるのは『交流と連帯』だ」と言われます。外部者であるJCNCと、そのドナーである地球の木は、今後どのように連帯できるのか、会員のみならずと一緒に考えていかなければならないと、あらためて実感したモニターツアーでした。



キズを防ぐために袋かけをされたバナナ



カラバオは貴重な財産

静かな戦争



いつもラオスから新鮮な情報を送ってくれるJVC現地スタッフの新井さん

JVCラオスでは93年より森林保全活動を実施している。ラオスの村人はその食生活のほとんどを森からの林産物（竹の子やキノコ、木の実など）に頼っており、森は村人の生活を支える重要な役割を担っている。ところが近年、カムアン県にも多くの開発（ダム・工場建設等）が入り、村人の生活の場である森が失われつつある。

コンケウ村は洪水の激しい村だ。この村には川があり、その上流にはナムトゥンヒンブダムという巨大ダムが98年に建設された。それ以来、洪水は毎年激しくなり、村人はダム建設から7年間水田で米作りを行っていたが収穫はなく、今では稲作を諦めてしまった村人も多い。「ダムができてから、川の流れが変わり魚が少なくなった。雨季はダムからの放水の影響で網で魚を収穫するのが難しい。また、川底には泥が溜まり魚が卵を産める場所も減ってしまった。」村の開発ボランティアであるタグロン氏はそう語る。

コンケウ村がダムの影響を受けていることは確かだが、現在のところこの村に対する保障は全くない。「一度、村にダム会社が調査に訪れたけど、村人はケンチャイ（遠慮する）だから、外の人に本当の事を言うことは難しいんだ」そんな村人の言葉と悲しげな表情が脳裏に残る。一見のどかで自由な暮らしをしている村人も、実は一党独裁という政治体制の抑圧を確実に受けている。政府の決めた開発政策は絶対であり、村人は声を上げたくとも上げられず、ただじっと痛みに耐え続ける。

しかし、小さな歩みだが状況の変化が見られる。ダムに加え、去年の12月、新たに日本の製紙会社がこの村を訪れ、村人たちに共有林の一部を植林のために提供してくれないかと執拗に迫った。しかし、村人は「洪水がひどく、植林に差し出すような土地は余っていない。」とはっきりそれを拒否したのだ。村人が、自分たちの生活と将来にとって、本当に大切なものは何なのかをしっかりと認識したからこそ、製紙会社の甘い誘いも断ることができたのだろう。

自分で考え判断する村人を作るこそ、JVCの本来の目的であり、少しずつそのような人は増え始めている。目に見える暴力こそ振るわれないが、自分たちを押さえつけようとする巨大な政治的力やお金に対して、自らの確固とした意思だけで対抗する村人の姿はまさに「静かな戦争」だ。静かで見落とされがちだからこそ、私たちはそのことに気付き、今後も意思ある村人をサポートしていく必要がある。

(JVCラオス事務所 新井 綾香)

カムアン県 森林保全・自然農業支援

フィリピン・ネグロス調査報告

2006年12月12日～17日

2004年度から3カ年計画で始まった「レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト」。今回その最終調査に訪れたネグロスは、クリスマス休暇を前にどの家も飾りつけをしていて、一年の中でも島全体がとても賑わっている時でした。

■ネグロス支援「レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト」のこれまで■

ネグロスの支援は元砂糖農園労働者が、農地改革で手に入れた土地で農家として自立する事を目標としています。地球の木はJCNC（日本ネグロス・キャンペーン委員会）を通して1992年から開始しました。2004年からは家族単位の農業で自立するために、モデル農家を対象に、農業技術指導・女性プログラム・マーケティングを柱にしたプログラムを支援してきました。農民たちはネグロスの隣の島セブ島での農民民泊交流で、家族みんなが働くこと・種のまき方や保存の仕方・苦瓜の作り方など、すぐに実践できる事をたくさん学びました。また家族農業で重要な役割を果たすお母さんたちも、体験交流や農業研修などお互いに学び、力をつけていきました。

■モデル農家訪問■

モデル農家を訪問し、いろいろ聞き取り調査をしました。どの家族も、サトウキビプランテーションの農業労働者として働いていた生活から離れ、着実に、自立した農民への道を歩んでいると思いました。「あれがない、これがない」と言っていた人が、どの野菜を自分の土地で作り、どのように市場やその他の所に売りに行けるかを自ら考えるようになっていたり、「こんな家で恥ずかしい」と言っていた奥さんも、夫と対等に話ができるようになってうれしいと自信を持って話してくれました。家族が丸となって働けば働くほど、畑に手をかければかけるほど収入が増える。そして家族の生活は安定し教育を受けることもできる。それがモデル農家で実現していました。

まだまだ家族農業の数は少なく、なかなか増えていかないのも実情ですが、まわりが関心を持って見つめているのは確かだし、ここまで来たことについては高い評価が得られるのではと、うれしく思います。

■新しい未来に向かって■

最後の日は、現地NGO・PAP21の10周年記念式典に出席しましたが、昨年1月に急逝した生みの親、ベン神父の不在が今更ながら残念でなりません。しかし、PAP21は自分の足で歩き始め、モデル農家も「ネグロス農民協同組合」を設立しました。今後についても心から応援したいと思います。

今回は、15周年記念・支援地訪問モニターとして、フィリピンには1名の会員が同行しました。その報告（3ページ）もご参照下さい。

(フィリピンチーム 廣瀬 康代)



ビセンテさんの家の前で。奥さんのエルサさんは「改装してサリサリストアーを開くのが夢」

レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト

新生ネパールに若者と女性の力を！

SOARSのニルマラさんから、ネパールの状況と、プロジェクトの進捗状況を伝えるレポートが届きました。ネパールは今年1月15日に下院を解散後、女性、先住民、不可触民を含むマオイストも入った暫定議会が発足し、暫定憲法が発令されました。6月に予定されている制憲議会にて王制か共和制かを決定することになります。この新しい展開に合わせ、SOARS/地球の木は、制憲議会選挙に向けての若者や女性の役割を考える集会を各地で行うことになりました。

(ネパールチーム 丸谷士都子)



新しい国づくりに向けて女性たちの役割を考える参加者たち (イマドール村にて)

地球の木のみなさま、ナマステ！

ネパールでは、10年以上にわたる紛争ようやく突破口が開き、6月に制憲議会がスタートすることになりました。国民が選出した代議員によって憲法が創案され、新しい秩序への扉がいよいよ

開かれるのです。市民自治の基礎づくりのためにやるべきことが山ほどあります。進歩的な民主国家の再建、複数政党がよいバランスを取って競い合う政治体制、市民権、人権、言論の自由、法の整備などなど。今から制憲議会選挙までの間にあれこれ問題が持ち上がってくるのが予想されます。

ネパールに永久的な平和をもたらすために、今こそ私たちNGOが貢献する時です。SOARSは、地球の木の協力のもと、「制憲議会における女性と若者の役割」と題するフォーラムをカトマンズで12月19日から21日、イマドール村では1月18日から20日に開きました。まずは、女性グループやユースクラブの代表者を招き、3日間のワークショップ兼トレーニングを行いました。内容は「制憲議会の定義」「平和への道筋」「社会の再建」「女性と社会平和」「平和構築のパートナーとしての若者たち」「若者たちと社会対話」などです。その後、参加者がグループ内で集会を開いて話し合ったあと、各地域で住民対象の集会を開くという段取りです。

カトマンズの集会では27の女性グループと12のユースクラブの代表がフォーラムに参加し、その内21グループがそれぞれの地域で集会を開いたとの報告があります。とても希望の持てる結果です。今後はカトマンズ、バクタプル、ラリトプル、の郊外20カ所まで1日フォーラムを開く予定です。地球の木の協力は、イマドール村だけでなく、カトマンズ盆地内の全地域にわたることになるのです。極西部カイラリ郡でも開く予定です。

2007年1月31日 ニルマラK.C.

教育支援プロジェクト

地球市民はシンプルライフ! ~暮らしから考える国際協力~



2月3日の正午過ぎ、理事、スタッフ他、約20名の会員が広いホールの中をときばきと動き回る。椅子が用意され、地球の木グッズを販売するブースには色とりどりの支援地グッズや本が並べられる。隣接するパーティ会場のテーブルには花や食事・クッキーが所狭しと並べられ、殺風景だった部屋は一転してイベント会場に早変わりする。

壁には、何か月前からネパール、ラオス、フィリピンなどで聞いた一口コメント「あなたにとって幸せとは？」が写真とともに張り出されている。どの人も、自分の仕事や家族のことを幸せに挙げており、金儲けは出てこない。あらためて、幸せとは何かを考えさせられる。



モニターならではの一味違う報告

初めに15周年記念行事の一つである、「モニター」の報告が行われた。「15年間会費を払い続けてきてよかった。地球の木の支援が本当にラオスの人々の役に立っていることを自分の目で見てきて、今は友だちに会員になるよう勧めている」と、小林喜美子さん。生まれて初めての海外旅行が、今回のラオスという末吉悦子さんは、「ラオスに行ってみて、日本の子どもたちは農業をコミュニティの中もっと身近なものとして体験するべきだと思った」と、外から日本を鋭く観察する。「募金することで自己満足して終わっている国際協力では意味がない」と言うのは、平楽中学校で6年間開発教育に関わってきた齋藤聖先生の辛口コメントである。

大谷ゆみこさんの元気な講演の後、待望の「つぶつぶ未来食体験パーティ」が始まった。



会場風景 熱心に報告を聞く JVC谷山代表も参加 談笑するネパールのカマルさんと大谷さん

雑穀とは思えないおいしさ、地球に優しい不思議な味にパーティ会場は盛り上がる。会員、関係者、一般参加者の70名が一堂に会し、地球の木の活動を知り、活動する人々と顔の見える関係を築く貴重な機会であった。

この15周年の記念イベントが次の活動への好調なスタートとなってくれると信じる。(乳井 京子)



地球の木15周年記念イベントのゲストとして、「暮らしの探検家」であり、「つぶつぶ食」で知られている大谷ゆみこさんが講演を行った。

大谷さんは「衝撃的に美味しい」を連発する。美味しいのは「つぶつぶ」、つまり雑穀だ。

「早く料理してよと、雑穀がお鍋の中で言うんですよ。だから、料理が楽しくなるんです」と言う。雑穀が煮え始めると、「懐かしいような美味しいにおい」が立ち込めて、なんだかわくわくするのだそうだ。

大谷さんが雑穀と出合ったのは、30歳のときだった。友人が間違った菜食をして命を落とした衝撃と、自身からだの不調を感じていたのが「つぶつぶ食」を始めてから格段に調子が良くなったことだ。肌がきれいになる、快眠、快便、元気になると。そんな雑穀のパワーの源を探るうちに世界中の雑穀に目を向けるようになり、さらには食糧問題が抱えている重大な危機をも知ることになる。いま、鍋の底で煮えている雑穀は世界とつながっている。肉やチーズといった風土に合わないものを止め、日本の風土に合った雑穀を主に海の塩を使う料理にする。自分が変われば体だけでなく世界も変わるのだと、大谷さんは断言する。

自分を守るのは自分であり、守るためには自分を知ること、自分を活かすこと。人間はイメージで生きているので、心配ばかりしているとそのとおりになる。「イメージ返し」をして今を生きること、本気で良いイメージを持てば自分が変わるのだと、ポジティブなメッセージは続いた。(佐藤 葉)

にぎわう鶴見国際交流まつり

今年で8回目を迎えた“鶴見区国際交流まつり”が1月28日に開催された。

地球の木とうぶランチが、このまつりに参加して7年になる。このまつりは、鶴見区をはじめ横浜市や県内外に住んでいる東南アジアや南米の国々の人々が、故郷のことを求め、旧交を温め、情報交換をする場所でもある。私達と同じような顔や背格好の人々が、懐かしそうに真剣に、ポルトガル語、スペイン語、ハンガリー語などで会話をしている風景。エキゾチックな顔立ちの家族が着物を着て、うれしそうに家族写真をとっている姿。エレベーターホールの片隅で、バツ群のセンスで踊っている子どもたち。

民族料理や民芸品、ステージで繰り広げられるフラメンコ、ラテンダンス、朝鮮舞踏、エイサー、ケーナの音色、太鼓の音など、民族の思いのたけに私たちも心を奪われる。

鶴見区は横浜市の中で外国籍の人々が一番多く住んでいる地区だけあって、行政も国際交流に熱心である。とうぶは、カンボジアやラオスのグッズ、コーヒー、バナナケーキを売ったが、来年は“マジカルバナナ”のワークショップもしたいと思っている。(とうぶ 柏柳 妙)

南北コリアと日本のともだち展

韓国・北朝鮮・日本・在日コリアンの子どもたちの絵を展示し、北東アジアの平和を願う「南北コリアと日本のともだち展」が1月12~14日まで、茅ヶ崎市民ギャラリーで開催されました。(主催：平和を考える茅ヶ崎市民の会実行委員会)会場では、ギャラリートークとして、絵画展の話の他、平和への語りつき(被爆体験や戦時中の生活についての話)なども行われました。会場で集められたメッセージは、各国の子どもたちに届けられます。埼玉、新潟、福岡、松山、松本など全国各地でもこの絵画展が開催されています。地球の木は「南北コリアと日本のともだち展」の実行委員会に参加しています。(筒井由紀子)

活動報告(12月~2月抜粋)

- | | | | |
|-------|--|---------|--|
| 12月2日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」
ネパールYOUTH交流スタディツアー説明会 | 18日 | ネパールチーム学習会(講師:シャプラニールの小松氏) |
| 5日 | ネパール新規プロジェクト調査報告会 中間監査 | 19日 | 第8回ランチ連絡会 フィリピン調査報告会 |
| 6日 | マジカルシュガー教材作成ミーティング | 20日 | 地球の木サロン「ハングルに親しむ」
ランチ合同パキスタン報告会(報告者JVC下田氏)
(NPOセンター大船) |
| 7日 | 第7回理事会 | | ネパールYOUTH交流スタディツアー学習会① |
| 8日 | 横浜市青少年育成協会来所 | 21日 | ラオススタディツアー報告会 |
| 9日 | 地球の木サロン「アロマテラピー」「ハングルに親しむ」中間監査 | 28日 | 鶴見国際交流まつり出店(とうぶ) |
| 11日 | ワークショップ「やってみようマジカルシュガー」
(地球市民教育チーム) | 2月 1日 | ネパールYOUTH交流スタディツアー学習会② |
| 13日 | 地球の木サロン「Tea&Talk」 | 3日 | 地球の木15周年記念イベント(ZAIM) |
| 15日 | 第7回ランチ連絡会 | 7日 | 地球の木サロン「Tea&Talk」 |
| 16日 | 生活クラブ「キララの日」参加(オルタ館) | 9日 | ワークショップ「あなたも村びと」
(ファシリテーター:ネパールのカマル・フヤル氏) |
| 19日 | マジカルシュガー教材作成ミーティング | 10日 | 地球の木サロン「アロマテラピー」 |
| 20日 | 地球の木カフェ(オープンオフィス) | 11日~18日 | ネパールYOUTH交流スタディツアー |
| 28日 | 大掃除 | 17日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」「ハングルに親しむ」 |
| 1月 6日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」 | 19日 | フィリピンプロジェクト評価会 |
| 12日 | アフガナイト(JVC藤井氏報告会)
生活クラブ新年会出席 | 20日 | 地球の木サロン「実践英会話」 |
| 13日 | 地球の木サロン「アロマテラピー」「Tea&Talk」 | 22日 | 第9回理事会 カンボジア調査出発 |
| 16日 | マジカルシュガー教材作成ミーティング | 27日 | 地球の木サロン「実践英会話」 |
| 17日 | 第8回理事会 | | |



2008年G8日本で開催

横川 芳江

G8サミット(Group of Seven and Russia、「主要国首脳会議」)は今年6月ドイツで開催されますが、来年の2008年には日本での開催が決まっています。米、英、仏、独、加、伊、日本の7カ国にロシアを加えた主要8ヶ国の首脳が年1回集まり、政治・経済など国際的な問題の指針を示すための会議です。しかしG8の国は多量の二酸化炭素を排出する国であり、貿易の不均衡をもたらす世界の貧困の元となっている国であるとして反グローバル化の人々から強い批判があります。また具体的な政策がない、形骸化しているともいわれていますが、このような機会を地球規模の問題の解決に向けて真摯に討議する場とするなら、これほど有意義なものはないでしょう。日本での開催地はまだ決まっていないようですが、京都・福岡などのほか横浜市も新潟と組んで誘致運動を進めています。

一方、NGOも日本開催に対応して行動を開始しました。今年1月末、70団体のNGOが結集して、「2008年G8サミットNGOフォーラム」が結成されました。先進国首脳陣に対して「貧困と開発」「環境」「平和」「人権」などグローバルな問題にNGOが、共同の提言を行ってほしいというものです。これまで協働の行動をとることのなかった国際協力に携わるNGO、環境系、平和・人権運動の団体などが、この「フォーラム」では、特定の分野を越えて、ネットワークを組んでいこうとしています。今後市民を巻き込み、さらに大きな運動になっていくものと思います。「ほっとけない世界の貧しさ」キャンペーンの教訓を生かして、貧困、地球温暖化、世界各地に起こる紛争などの解決に向け、日本の市民力を示す良い機会にしたいですね。

第8回総会のお知らせ

日 時：5月26日（土）13：00～17：00
 場 所：オルタナティブ（オルタナティブ生活館）
 新横浜駅下車徒歩7分
 多くの方のご出席をおまちしております。詳しくは
 同封のちらしをご覧ください。

ネパールYOUTH交流スタディツアー '07報告会 「ネパールに見た女性と若者たちの役割！」

2月に7名がネパールへスタディツアーに行ってきました。ユースクラブ、女性グループ、父親グループとの交流、学校訪問、ホームステイなどを通して参加者は何を学んだのでしょうか？
 ネパールのお茶とお菓子を食べながら、報告をお聞かせください。

日 時：3月20日（火）14：00～16：00
 場 所：平沼記念レストハウス
 （関内駅南口下車徒歩5分 文化体育館となり）
 参加費：無料

フィリピン・ネグロス島調査ツアー報告会 & ピアノコンサート

ピアニストの河野康弘さんは、1991年の湾岸戦争時に「日本はお金を出して戦争する国になってしまった。何とかしなければ…」と平和や環境を訴えるコンサートツアーを始めました。家庭に眠るピアノを海外に贈り続けてもいます。報告会の後の一時をお楽しみください。

日 時：3月21日（水・祝） 11：00～報告会
 12：30～ランチ 13：30～コンサート
 場 所：カフェレストラン「ラシエット」
 （小田急線相模大野駅より徒歩2分）
 参加費：2,000円（ランチ、コンサート）
 主 催：地球の木泉央・さがみランチ
 お問合せ：地球の木事務所

アジアフェア（オープンオフィス） 好評です！ 期末セール！

年に一度の在庫処分です。ラオス、カンボジアからはショールや小物が到着したばかり。カンボジアの職業訓練センターの女の子たちが織った布を、どうぞ手にとって見てください。

織工房「真里庵」主宰の斎藤真里さんから、織り物や柄の種類についてお話が聞けます。奥の深い織物の世界へどうぞお越してください。

日 時：3月30日（金）11：00～18：00
 場 所：地球の木事務所（関内駅南口下車徒歩1分）

あーすフェスタかながわ2007

地球の木は今年も企画委員として関わっています。オリジナルレシピのちぢみも焼きます。熱々をどうぞ。
 日 時：5月19日（土）20日（日）
 場 所：あーすプラザ（JR本郷台駅下車改札出て左手）
 地 図：<http://www.k-i-a.or.jp/earthfesta/festa2007/contactus.htm>
 詳細は<http://www.k-i-a.or.jp/earthfesta/>

パキスタン地震被災者支援を終了

パキスタン地震被災者支援事業は2007年1月31日をもって現地での活動を全て終えました。これまでに、一次支援として、毛布・簡易テントとなる防水シート・敷物のセット約300家族分を配布。二次支援として、衛生環境を保ち伝染病を防ぐためのトイレの設置をしてきました（家庭用1,196基、学校用70基）。設置にあわせて衛生指導の小集会も頻繁に開きました（延べ12,929人参加）。

事業実施地では「パルダ」と呼ばれる男女隔離の考え方が存在し、外を歩く女性を見かけることさえ稀です。そうした中で女性は野外排泄を強いられてきましたので、今回のトイレ事業は女性に本当に喜ばれました。

この度はご支援いただきまして本当にありがとうございました。
 （JVC現地調整員 安野 修）

地球の木カレンダーありがとう

おかげさまで1,243部売れました。みなさまのご協力があったからこそこの達成です。美しいアジアの写真を1年間楽しんでください。収益は地球の木の各支援地プロジェクトに使わせていただきます。

寄付・募金ありがとうございました

2006年11月11日～2007年2月16日の寄付者名（敬称略）
 総額 1,462,892円

熱海よし子	小島梅子	寺田悦子	朴清美
阿部忍	斉藤恵子	棟上真理	星恵美
飯田信子	斉藤敏	柄内まゆみ	保住正道
泉寛子	酒井緑	豊田由紀子	本田まり子
井上知子	坂下まさみ	内藤博子	前田かな子
今村恵子	酒田常子	中里ゆかり	増子博子
ウイソ・ハサー	阪田美恵子	長澤紀子	増田妙子
植田泉	桜井美紀子	永田知恵子	松田澄子
植圭子	佐々木慧子	中野真理子	松本恩
檀木志津子	佐藤葉	西田千代子	丸谷土都子
海老沼和佐子	渋谷美賀子	西村歩	向井しづ
大貫玲子	島村祥子	乳井京子	村本文美
大森正子	下村久美子	乗松寿代	森田敬子
小野沢春子	庄子広子	橋本藤子	山本圭子
柏柳妙子	庄司富士子	浜辺美英子	横川芳江
上條淑子	末吉悦子	原園子	吉田藍子
唐見純	杉澤弘子	春木由紀子	若林大作
川上博美	比嘉公	比嘉公	米林かをる
木内京子	関川溪子	平田貞夫	脇坂真沙子
北形り子	高橋百合子	平田千鶴子	和田由季
木村三千代	田中いく子	平山今紀江	フアバーサイクル
小内いくよ	廣谷しげみ	廣瀬康代	泉
高光利恵	蝶間林裕美	深澤睦子	横浜市立平塚中学校
國分純子	土森道雄	藤本直美	Tea&Talk東戸塚

「カンボジア里親支援の会」報告

おかげさまで今年度分、216,000円をチャイルドケアセンター（るしな）に送ることができました。

地球の木サロン新規講座のお知らせ

日 時：4/20（金）	日 時：4/28（土）
講座名：自力整体	講座名：パッチ・フラワーメディ
講 師：山本修子	講 師：浅井ひとみ
場 所：男女共同参画センター横浜 （戸塚 旧女性フォーラム）	場 所：地球の木事務所
会 費：一般 1,500円 （会員は1割引です。）	会 費：一般 1,500円 （会員は1割引です。）
	定 員：6名

* 詳細は同封のちらしをご覧ください。

★ボランティア募集！
 発送作業、イベント手伝いなど

